

(完2、可2)

国立大学法人北陸先端科学技術大学院大学  
第103回経営協議会議事要録

日 時 令和4年6月17日(金) 13:00～15:10  
場 所 北陸先端科学技術大学院大学 第1・第2会議室(国際交流会館1階)  
出席者 寺野稔(議長)、永井由佳里、飯田弘之、西山和徳、黒田壽二、細野昭雄、  
井熊均、岩澤康裕、小俣一夫、金井豊、小原奈津子、仲井培雄及び  
永田晃也の各委員  
欠席者 中尾正文、馳浩の各委員  
オブザーバー 三宅幹夫監事、水野一義監事、内平直志学系長、鶴木祐史学系長、  
小矢野幹夫学系長、松見紀佳学系長及び吉丸尚宏石川県企画振興部課長

議事に先立ち、議長から、事前に送付した令和4年4月22日開催の第100回経営協議会の議事要録(案)、令和4年5月10日付け開催の第101回経営協議会(書面付議)の議事要録(案)及び令和4年6月7日付け開催の第102回経営協議会(書面付議)の議事要録(案)について、資料1-1～1-3に基づき説明があり、原案のとおり承認された。

## 議 事

### <意見交換>

#### 1 新研究センターの設置等について

永井理事から、新研究センターの設置等について、資料2に基づき説明があり、その後、意見交換が行われた。

- ・世界の潮流としてウェルビーイングを取り入れるのはいいが、ただ取り入れるだけでは目的を誤解し空虚な結果となる懸念もある。持続的に目指す方向をしっかりと持った上で、JAISTならではの取組みを發揮していただきたい。

⇒単なる流行に飛びつくのは慎むべきであるが、例えばカーボンニュートラルのように、我々が将来に対して真に必要性を感じてやるべきことに対しては、躊躇せず取り組むべきと考えている。

成長が見込まれる産業分野なので、人材育成・就職の観点から、データサイエンスを基盤としたメディア技術を持つ学生の育成を考えている。そのため、総合知と言われるような社会的事象と情報技術を繋げる研究姿勢を持っている者でセンターを構成することが重要と考えている。

- ・メタバース分野は民間企業の方が成功しているところも多いと思うが、大学としてどのような連携・ポジションを取ることを考えているか。民間企業でも中身の無いメタバースというところもあったりするので、行動科学や知識科学で中身のある程度作ってあげる等の

ポジションの取り方はあるように思う。

⇒大学が単独開発できるような分野でないことは認識しており、センターの教員5名については、クロスアポイントメント制度等による民間企業の研究従事者を想定している。当然、そういうところでの研修やインターンシップ等の機会を踏まえ、博士後期課程学生とともに課題に挑戦していくプログラムを考えている。

- ・メタバース先端デザイン研究センター構想について、大学の将来像をこれで作り上げるという話まで含まれているのか。

⇒今回は、概算要求にあたり研究センターを作るのだ、ということで押し出していく。なお、仮想空間内での研究大学という姿を提案するという事は、大学の在り方の新しい提案に繋がっていくものとは思いますが、現段階で構想が固まっている訳ではない。

- ・新しいコンセプトが出る時には、「コンセプト自体が先行するのではなく、それを提唱した研究者がいる」ということが本来あるべき姿であり、一人一人の研究者が、自身が立ち上げたコンセプトについて責任を持って進めていくことで、その事柄の正しさが見えてくるものと考えている。

今回、資料に教員5名との記載があるが、新しいコンセプトを進めていくことになるこの5名の研究者の顔が見えないというところに、深い懸念を感じる。当該教員5名について、現時点で決まっているのか、また、今から採用人事を進める場合はどういったポリシーで進めていく予定なのか。

⇒候補者を全く想定していない訳ではなく、学内にも能力を持った、あるいは開発に挑戦しそうなマインドを持った研究者はいるが、現時点で研究業績にこの単語がそのまま出てくる学内研究者は数名程度しかいない状況である。

また、本学は公募制を採っており、重要な公募に関しては毎年一定数を採用している。クロスアポイントメント制度も絡めて斬新な人事を打ち込める余地はあるので、学内コンセンサスも得つつ大学の戦略に沿って進めていきたいと考えている。

- ・産業との連携なくしてなかなか進めにくいプロジェクトだと思うので、北陸RDXの目玉の一つとして考えていくのも手ではないか。

⇒ご指摘の点も方向として見ていきたい。

- ・どのような設備が必要と考えているのか。また、教員5名について、どういう専門分野の研究者を考えているのか。

⇒設備に関しては、まだ経費が高いため、かなりの額が必要になると思うが、イノベーションプラザの正面にタッチすればメタバース空間にその場に入っていけるショーケースの形のようなものを想定している。また、教員については、学内も含めメタバース技術そのものを駆使できる研究者を2名、この技術を使いデータサイエンスとしてサービスを構築できるような社会学者を1名、そして残る2名はベンチャー的な発想で研究そのもの

を事業として考えられるような方を想定している。

## 2 学生獲得の状況と方針について

飯田理事から、学生獲得の状況と方針について、資料3に基づき説明があり、その後、意見交換が行われた。

- ・企業にとって、技術系の人材を採用しようとする、鍛えるのに時間を要することもあり、やはり修士課程まで修了している方が求められることが多くなるように思う。例えば福井大・富山大・金沢大との北陸4大学連携の枠組みを、大学ごとに異なる特徴があることも踏まえ、学生獲得に活かしていくことはできないか。

⇒学長をリーダーとして色々と展開・調整を行っており、北陸の各大学でも年1回は説明会を実施しているほか、訪問なども行っているが、なかなか苦戦しているのが実情である。そのため、学生が研究したい、あるいはもっと勉強したいと思ったときに、JAISTを選ぶという必然性を高めていくことが重要と考えている。

- ・修士課程で標準修業年限内に修了していない人が多いというのは、文理融合で全く異なる分野から来てもう一度勉強している人が多いからなのか、それとも留学生で語学も含めて修了レベルに到達しないためなのか、それとも他に原因があるのか。博士課程についてもどうか。

また、異分野からの学生獲得に関しては、例えばオープンラボのような形で、先生と一緒に研究したりゼミを体験してみたりすることで、敷居を低くするといった試みはどうか。

⇒標準修業年限内の修了については、100%を目指すことが理想ではあるが、学位に対する質保証の責任も当然あることから、現実的には7~8割位がいいところではないかと考えている。また、異分野から入学する学生のために、導入講義やMαプログラム（2年間の授業料で、3年まで在籍が可能）を用意しており、これは企業に対しては「この学生はMαを選択したので、留年ではない」と説明して実施しているプログラムである。これらも含め、標準修業年限内での修了率が今のところ低い状況であるが、もう少し上げていきたいと考えている。

また、オープンラボの取り組みについて、本学の場合はインターンシップという表現で手広く実施しているところであるが、異分野からのケースはあまり無い状況である。

- ・Topic Clustersというデータを用いて「志願者から必然的に選択される研究拠点を形成しているかどうか」という分析を行おうとしたことは分かるが、非常に難しい行動特性に関する分析であり、この分析結果を以て因果関係を推論するには無理があるように思う。もっとシンプルに、例えば入学者アンケートを実施しているのであれば、その結果を示していただいた方がよりダイレクトに志願者の意識を見ることもできるので、もう少し分かり易いデータの示し方を工夫いただきたい。

また、Topic Clustersでは情報系・知識系の方が上位に集まっているが、一方で、対外的

な印象や評価を上げる国内プレスリリースではマテ系の方が件数が多くなっており、ここから何を読み取れるのかが分かりにくい。

⇒入学者に対するアンケートは毎回実施しており、そのフィードバックを学内FDで共有したり説明会開催の参考にしたりと工夫している。そういったデータを、次回はもう少し分かり易い形でまとめてお示ししたい。

- ・標準修業年限内での修了率がかなり低い状況となっているが、学生も納得済みでこういう状況になっているのか。

⇒修了者に対し、年4回の修了時に併せてアンケートを実施しているが、標準修業年限内での修了率の低さが満足度低下に繋がっているような相関は今のところ見えていない。標準修業年限内で修了できることがベストだが、社会人学生や異分野からの挑戦となる学生で、最初から思いを込めてしっかり勉強するという方々が良い意味でいるのもまた確かなので、制度をうまく活用しながら、基本的には標準修業年限内で修了していただくという方針で臨みたいと考えている。

### 3 法人経営人材育成方針の策定について

学長から、法人経営人材育成方針の策定について、資料4に基づき説明があり、その後、意見交換が行われた。

#### <審議事項>

##### 1 令和4年度評価実施計画の策定について

評価室長から、令和4年度評価実施計画の策定について、資料5に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

##### 2 第3期中期目標期間の評価について

評価室長から、第3期中期目標期間の評価について、資料6-1～6-3に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

なお、追加・修正等の必要が生じた場合の対応については、学長に一任された。

##### 3 令和5年度概算要求について

会計課長から、令和5年度概算要求について、資料7に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

なお、追加・修正等の必要が生じた場合の対応については、学長に一任された。

##### 4 未来創造イノベーション推進本部イノベーション創出機構 新3センターの設置について

永井理事から、未来創造イノベーション推進本部イノベーション創出機構 新3センター

の設置について、資料8に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

## 5 学内規則の一部改正

### ・学則の改正について

総務課長から、学則の改正について、資料9に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

## <報告事項>

### 1 令和3年度チェック・アンド・レビューの実施等について

永井理事から、令和3年度チェック・アンド・レビューの実施等について、資料10-1～10-3に基づき報告があった。

### 2 令和4年度会計監査人の選任について

監査室長から、令和4年度会計監査人の選任について、資料11に基づき報告があった。

### 3 令和3年度経営協議会学外委員等からの意見と対応状況について

学長から、令和3年度経営協議会学外委員等からの意見と対応状況について、資料12に基づき報告があった。

### 4 最近の本学の活動状況について

広報室長から、最近の本学の活動状況について、資料13に基づき報告があった。

## <その他>

### 1 次回の開催について

議長から、次回の本協議会の開催を令和4年9月16日（金）に予定している旨の説明があった。

資料

- 1-1 第100回経営協議会議事要録（案）
- 1-2 第101回経営協議会（書面付議）議事要録（案）
- 1-3 第102回経営協議会（書面付議）議事要録（案）
- 2 新研究センターの設置等について
- 3 学生獲得の状況と方針について
- 4 法人経営人材育成方針の策定について
- 5 令和4年度評価実施計画の策定について（案）
- 6-1 第3期中期目標期間の評価について
- 6-2 第3期中期目標期間に係る業務の実績に関する報告書（案）について
- 6-3 中期目標の達成状況報告書（案）について
- 7 令和5年度概算要求事項（案）
- 8 未来創造イノベーション推進本部イノベーション創出機構 新3センターの設置について
- 9 北陸先端科学技術大学院大学学則の改正について（案）
- 10-1 令和3年度 チェック・アンド・レビューの実施について（エクセレントコア）
- 10-2 令和3年度 チェック・アンド・レビューの実施について（研究施設）
- 10-3 令和4年度チェック・アンド・レビューについて
- 11 令和4年度会計監査人の選任について
- 12 令和3年度 経営協議会学外委員等からの意見と対応状況
- 13 最近の本学の活動状況について